

## シンガポールの暮らしや環境 ～平野委員へのインタビュー～

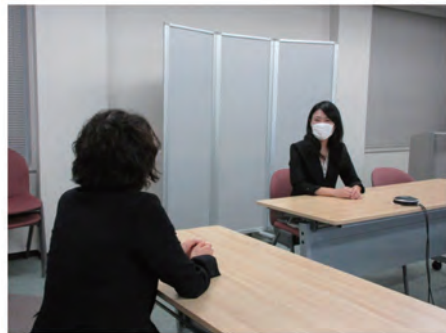
(一社)日本環境測定分析協会 出版・会誌委員会編集

### ■はじめに

今年4月からシンガポールに転居し、仕事を続けている出版・会誌委員会の平野あや委員((株)オオスミ 経営企画室長 兼 シンガポール駐在所長)。今回、一時帰国されたタイミングで、シンガポールの暮らしや環境についてインタビューしました。



平野あや委員



インタビューの様子



(以下、平野委員：平、インタビュアー：イ)

### ■シンガポールは緑がたくさん！ 国民は、小さいことは気にしない

イ：シンガポールと日本の生活でいろいろな違いがあると思いますが、特に驚かれた点や興味深いと思われた点があれば教えてください。

平：最も印象的なのは、街中に緑がとんでも多いこと。シンガポールの面積は東京23区より少し大きいくらいですが、国の緑化政策で国土の1/3が緑なので、近代的な高層ビルが立ち並ぶエリアにいても、常に視界に緑が入ってくるので気持ちが良いです。

イ：緑に囲まれた街、素敵ですね。

平：それから、物価が高いです！ 家賃や日用品や食料品・外食費も、日本の2～3倍するので、欲しい物、食べたい物を買うのに躊躇してしまいます。

イ：確かに、それは躊躇してしまいますね…。ちなみに、日本のものはシンガポールでも買えるのですか？

平：物価の高さに加えて輸入代も含まれるので驚くほど高いですが、日本のものは何でも手に入ります。日本人もとても多いので、日本のお店やビジネスもたくさん入ってきています。

イ：日本人も生活がしやすいそうですね。他にも驚かれたことはありますか？

平：みんな良くも悪くも適当で、小さなことは気にしないです。

良い点として、多国籍なので他人と違って当たり前という風潮です。誰も何も気にしないけど親切です。それから暑い国というのもあり服装も皆さんラフです。ビーチサンダルで出かけるのも当たり前です。

悪い点としては、建物などは見た目は豪華でも、細かな点は雑な作りであることが多く、例えば、水漏れはしょっちゅうですし、修理を依頼しても時間通りに来る方が稀など、家の中は不便なことがたくさんあります(笑)



緑が多い市街地

イ：なるほど(笑)おらかな国民性なのかもしれませんね。

### ■ダイバーシティ、スマートシティなシンガポール

イ：多国籍ということですが、どんな国籍の方が多いのでしょうか。

平：国民は中華系が74%，マレー系が13%，インド系が9%です。それぞれの文化や宗教も尊重されていて、それぞれの宗教のお祭りの日が祝日になっていたり、街中にもそれぞれの宗教の寺社があります。その他に、働きに来ている欧米人、日本人、インド人、フィリピン人が多くいます。

イ：多様性が尊重されているのですね。国の公用語は何になるのでしょうか？

平：公用語は英語、中国語、マレー語、タミル語です。私を含め、日本人は中国語で話しかけられることも多いです(笑)

イ：シンガポールでの生活や、住みやすさはいかがでしょう。

平：スマートシティ化が進んでいて、生活は便利です。入国、行政サービス手続き、個人間の送金もスマホ一つで完結します。世界のスマートシティランキングで、シンガポールは3年連続で1位になったそうです。

イ：さきほど、物価は日本の2~3倍とお話しされましたが、逆に、日本よりも安価なものがありますか？

平：電車やバスなどの公共交通機関は日本よりも安く、タクシーも、一般の人が気兼ねなく利用できるくらいの金額です。あとは、レストランにいくと日本の2~3倍の金額ですが、ホーカーセンターという、世界無形文化遺産にも登録された何十軒もの屋台が集まった場所が沢山あり、一食2~3シンガポールドルから食べることができます。

イ：食事の話が出ましたが、シンガポールは食料品の90%以上を輸入に頼っていると聞きます。スーパーの品揃えなどはいかがですか？



ホーカーセンター(左) S\$3.5(約350円)のチキンライス(中) S\$4.5(約450円)の日本の納豆(右)

平：スーパーでは様々な国の食材を売っています。(例：野菜は、マレーシア、タイ、ベトナム、中国、オーストラリア産、野菜に鮮度は望めません…)一般のスーパーでオーガニック食品(すごく高い)を扱っている割合が日本よりも多い印象です。欧米の方向けかもしれません。ちなみに、今後は自給率を30%にする目標があるそうです。屋上での農業、水域での養殖業、家庭菜園を推奨しています。

イ：農業や家庭菜園を推奨とのことですが、年間の気温はどのくらいなのでしょう？

平：年間を通して30℃くらいです。日本のような大幅な変動がないので、体調を崩しにくい気がします。ただ、室内の冷房がとても強いので、それだけが身体を壊しそうな危険なレベルに感じます。

イ：湿度は高いですか？

平：非常に高いです。室内のカビに悩まされています。

イ：気候はどうですか？ 雨季があるのでしょうか。

平：雨季と乾季があります。1日1回はスコールのような雨が降るので、折り畳み傘は必需品です。

イ：日本にあるような、モノづくりのための工業団地のようなものはあるのでしょうか。

平：中小企業はあまりないようですが、郊外には工場の集積地帯があり日系大手企業の工場もあります。ただ、基本的にはオフィスが多く、研究拠点を置いている企業もあるようです。

イ：シンガポールの方が海外に出るときは、渡航制限などはあるのでしょうか。

平：シンガポールのパスポートは、日本に次いで世界で二番目に渡航できる国が多いそうです。国が安定している、政治的なしなみがない、といった点では、日本と近いのかもしれませんが。

### ■シンガポールのごみ処理事情…一般家庭ではごみの分別がない!?

イ：シンガポールではごみのポイ捨てに厳しいなど、環境に配慮した取組みが進められていることはよく知られています。他方で、シンガポールの周辺の国々では集積場のごみ山からリサイクルごみを集めることが、一部の国民の収入源になっていると聞きます。シンガポールのごみ回収やごみ処理は、どのような仕組みになっているのでしょうか。

平：シンガポールでは、政府の主導によりごみは適切に回収・処理されています。回収等の業務は政府から委託された民間業者が請け負うなど、お金をかけてきれいにしているという印象です。

街中のごみ箱は2~3種類に分別されていることが多いですが、一般家庭は、ゴミの分別は義務付けられていません。国民の多くが住むHDB(公営住宅)、主に外国人が住むコンドミニウムともダストシュートがあることが多く、家庭から出る全てのゴミをそこに捨てるので分別をする必要がありません。

イ：各家庭で分別している日本から見ると、驚きです。

平：初めは捨てるのに躊躇しました…。

イ：各家庭から出たごみは、その後どうなるのでしょうか。

平：ダストシュートに入れたごみは、建物1Fにある大きなコンテナに全て集約され、トラックで収集されます。

ちなみに、ごみのポイ捨ては罰金(初犯1,000S\$)ですが、結構ごみは落ちています。ポイ捨てされたごみは清掃員が回収してきれいにしています。ごみ処理対策がインフラとして、システム化されている印象です。



街中のごみ箱(左, 中央)と、コンドミニウムに備え付けのダストシュート(右)

### ■シンガポールが抱える環境問題…水資源の確保が最重要課題

イ：シンガポールといえば、大気汚染問題としてヘイズ\*が知られていますが、影響を受けたことはありますか？

平：コロナ前に月1で来星していた時は、毎日ニュースで報じられていましたが、今年の4月にこちらに来てからは、全く見聞きしない状況です。

イ：ほかにも、シンガポールが抱える問題として、水資源の確保が重要と聞きました。

平：はい。シンガポールは天然の水源がなく、水を確保する方法として、①貯水池、②輸入、③下水の再生(NEWater)、④海水淡水化の4つがあります。先日、最大の貯水池「マリナーバレー」(サステイナブル・ギャラリー併設)と下水再生(NEWater)工場に見学に行ってきました。

サステイナブル・ギャラリーでは、「シンガポールの水事情」「気候変動」「ゴミ問題」「都市開発」などについて、アートや最新のデジタル技術を使って環境問題や政府の方針をわかりやすく展示しています。屋上にはマリナーベイサンズ(ユニークな形で有名なホテル)を望めるソーラーパークと芝生の公園があり、凧揚げを楽しむ家族連れなどが

\*周辺国の焼畑や野焼きなどによって発生した煙が、季節風に乗りシンガポールまで運ばれ、濃い霧のような現象。



上段：サステナブル・ギャラリー，下段：NEWater(下水再生工場)

たくさんいました。

下水から再生したNEWaterは、マイクロフィルター、逆浸透膜、紫外線殺菌の工程で日本の技術も多く使われています。工業用の他、心理的ハードル緩和のため河川に放流されていますが、WHOの飲料水基準をクリアしているそうです。おみやげに、その下水から再生した飲料水をもらいました。休日でしたが、小学生くらいの親子連れが多かったのが印象的でした。

イ：再生水の味はいかがでしたか？

平：シンガポール人も飲みたがらないと噂で聞いていたので、恐る恐る飲みましたが、無味でした。

水って、水道水でもミネラルウォーターでも、何かしらの特徴的な味がするのが一般的だと思うのですが、ニューウォーターはまったく味がなくて不思議な感覚でした。

イ：日本だと、こういった施設は学校の社会科見学で行くイメージですが、親が連れていくというと国民一人一人の意識が高いように感じます。

平：そうですね。シンガポールの国としての大きな問題というのが、「土地が少ないこと」と「水資源が少ないこと」の2つです。先に言ったように、もともと天然の水源がなく、輸入に依存している中で、いま一押しの技術が下水から飲料水を作る技術で、国民の関心も高いようです。私が行ったときは小学校低学年くらいの子供を連れてくる親子が5組一緒でした。また、休みの日にわざわざ行くとすると、関心も高いのかなと思いました。

イ：シンガポールは水道水が飲めるのでしょうか？

平：シンガポールの水道水はそのまま飲用しても水質的にも問題ありませんが、特徴的なのが、国民の虫歯予防としてフッ素が添加されていることです。そのせいかわかりませんが、日本から持ってきた炊飯器で日本で買ったお米を炊いているのに、日本で食べていた時よりも美味しくない感じがします。

#### ■現在はテレワーク中。シンガポールから、オンラインセミナーの司会をすることも

イ：現在はシンガポールからリモートでお仕事をされているのですか？

平：完全リモートでフルタイム勤務です。もともと(株)オオスミ(以下、オオスミ)では、コロナ禍になってから、リモートワークが可能な部門は在宅勤務が推奨されていて、企画営業職である私も在宅勤務を実施していました。会社からは「シンガポールで勤務するのも、コロナ禍でリモートワークしていたのと同じじゃない？」と言ってもらい、日本にいた頃と同じように仕事をしています。当初は、退職も覚悟して休業の相談をしましたが、会社の理解により継続して働かせてもらっていることに感謝しています。

イ：オンラインでどのように仕事をされているのですか？

平：コロナ以降、お客様ともオンラインでのミーティングがOKのケースも多いですし、どうしても対面が必要な場合には他の人をお願いすることもあります。また、オオスミでは、オンラインセミナーに力を入れているので、その企画・運営なども行っています。毎月、シンガポールから私が司会・進行をしています。

イ：セミナー受講者はまさか、シンガポールから司会をされているとは思わないでしょうね(笑)

平：また、せっかくなら海外の最新情報や市場調査もしようと言っていたら、オオスミ シンガポール駐在所を設立しました。

イ：なんと！ おめでとうございます。これからますますのご活躍、ご健勝をお祈りしております。

平：ありがとうございます。

イ：テレワークをはじめてよかったこと、大変だったことなどがあれば教えてください。

平：在宅という点では、通勤時間の無駄がなく、合間に家事をすることもできたりするので効率は良いと思います。マイナスの点は、私は外に出かけて人と接するのが好きなので、家の中にいるのがもどかしく感じるのと、仕事専用の部屋がなくダイニングで仕事をしているので、朝起きて5分後には仕事モードになり、気づくと昼食を食わずに夕方になっていることもあり、メリハリがつけにくい点です。

イ：今後の働き方などについて、思うことがありましたら、一言お願いいたします。

平：業界の特性上、分析のラボや測定の現場など、テレワークが難しい業務も多いですが、同じ会社の中でも職種や部署によりテレワークを一部でも取り入れたり、調査後のデータ整理や報告書作成は在宅で行ったり、子育て中だけ在宅に切り替えたりするなど柔軟な働き方が選べるようになると、個人のワークライフバランスも充実して、生産性やモチベーションが高まるのではないのでしょうか。

#### ■おわりに…シンガポールから日本をみると

イ：シンガポールに行ってから日本をみるとどうですか。

平：日本にいと、常に“ちゃんとしなきゃいけない”という気が張っている感じでしたが、シンガポールに行ったら“こんなに適当でいいのか！”と感じています。普段の生活や人との関係性が、日本に比べてラクに思います。だらしなくするとか失礼があるという話ではなく、日本が少々窮屈というイメージです。日本も、あまり肩ひじを張らないような形でできたら、ビジネスでの付き合いや生活も、また少し違ってくるのかなと思います。シンガポールでは人が優しいとみんな言います。色々な場面で、他人にさっと手を差し伸べるということを、みんな当たり前に行っています。

イ：いままで伺ったお話…国民性や経済面から考えても、色々な意味で自分に余裕があるから他の人を助けられるのかもしれないですね。

平：ぎすぎすしたり、何かに追われたりしていないからかもしれませんね。日本では朝急いでいる時など、数分のロスも惜しい方が多いと思いますが、向こうではそんなこと誰も気にしません。

イ：日本ももう少し、気持ちに余裕がもてる社会になると、個々の働き方や生活の仕方も変わってくるかもしれませんね。とても興味深いお話ばかりでした。今日はお忙しいなか、ありがとうございました。

平：ありがとうございました。